

## 家族でつくる育成標語入選者、不審者訓練

### ◆家族でつくる育成標語 最優秀作品・優秀作品の発表

家族のあいだで交わされる何気ない言葉には、思いのほかに大きな力があります。「おかえり」「大丈夫？」といったひと言が、日々の安心や温かさをつくっています。

福井県の「家族でつくる育成標語」の募集は、そんな家族の言葉にもう一度目を向けるための取り組みです。思いを言葉にしてみると、ふだん気づかない家族の強さや優しさが浮かび上がってきます。愛情、支え合い、安心——どれも特別ではないけれど、大切なものばかり。家族で標語をつくる時間は、見えない絆をそっと確かめる小さなひとときなのかもしれません。だからこそ、家族で標語をつくる時間は、“絆を言葉にしてみる”小さな試みなのかもしれません。

心に響く言葉は、ただ飾られているだけでは意味をもちません。誰かの思いや願いが込められているからこそ、日常をあたたく照らす灯になります。家族の絆や、そばにある安心を言葉にしてみる——それは、目に見えない宝物をそっと確かめる行為なのだと思います。以下は、入賞作品です。

- ・「誹謗中傷 ネットに残る 心に残る」 (最優秀賞)
- ・「簡単に 投稿コメント 悪魔の手」 (優秀賞)



### ◆不審者対応避難訓練

ある日、授業中の静かな教室に、突然「不審者が侵入しました」という放送が流れたら——。その瞬間、あなたはどんな行動を取るでしょうか。心臓がドキッとし、頭が真っ白になるかもしれません。それでも、自分の命を守る行動は“そのとき”にしかできません。今回の避難訓練は、そんな「もしもの瞬間」を想像しながら行う、本気の訓練です。ふざける時間は一秒もありません。静かに、すばやく、担任や周りの友達の指示を聞き、身を守る行動をとること。それが、あなた自身を危険から遠ざけ、隣にいる友達の命を守ることにもつながります。



そして、この訓練は先生たちにとっても、学校全体の動きを確認する大切な時間です。“自分には関係ない”ではなく、「もし今日、その瞬間が来たら」と考えながら参加してください。命を守る行動は、本気で真剣に訓練した分だけ必ず実践力＝平常心(パニックにならない)になります。

## 受験は乗り物

最初のお題です。沖縄に行くとしたら。どうやって行きますか？

多くの人は「飛行機」と答えるでしょうね～。ちょっとお金がかかりますが、沖縄までひとつ飛び！あっという間に目的地に着けます。でも、他にも方法がありますよね？電車や新幹線を利用して行く方法もあります。もちろん、自動車でも行くことだってできます。ヒッチハイク！？もできるかな～。(ちなみに R 先生はヒッチハイクで北海道を旅していたらしいですよ…)そして…その気になれば、自転車でも行くことができますし、ランニングや徒歩でだって行けます。さらには、泳いでだって行くこともできるはずですよ。

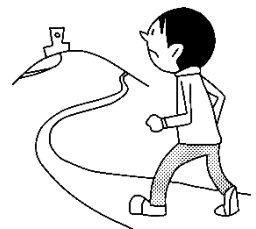


いろんな方法がありますが、でもやっぱり飛行機で行くのが一番手っ取り早いですかね。時間にも無駄なく、しかも簡単にいきますから…。では、次です！いずれかの方法で沖縄に到着したとき、どんな自分になっているのか想像してみてください。沖縄まで飛行機で行ったときの自分、電車や新幹線を乗り継いで行ったときの自分、自動車で行ったときの自分、ヒッチハイクで行ったときの自分、自転車で行ったときの自分、ランニングで行ったときの自分、徒歩で行ったときの自分、泳いで行ったときの自分…。同じ目的地を目指しますが、行き方によって、到着したときの自分はやっぱり違うように思うのです。手っ取り早く着く方法もありますが、時間や労力はかかっても苦労を重ねて着いた自分は、何か大きくて大切なものを手に入れているような気がしませんか？手っ取り早く着いていれば、沖縄でたっぷり満喫できますけどね…。

さて、中学生は自分の進路（ミライ）を考える大切な時期です。そして今、3年生にとっては、進路先を決めなければならない時です。多くの受験生にとっては、進路先の決定は大きな悩みの一つです。進学先で、人生の全てが決まってしまうような気さえますから…。私自身も、自らの受験の時は、高校の進学先は「人生の目的地」を決めてしまうようなものだと思ってきました。しかし、これまで色んなことを学び、考えた末…今はそんなふうには思っていない。実は、その気になればどんな方法でだって、目的地に行けるように思うのです。

「学校の先生になりたい」と考えた人は、教育系学部の大学に行くために、高校は進学校の普通科を選択することが多いでしょう。はっきり言って、一番手っ取り早い方法です。ある先生の話では、中学生の頃、「将来は、小学校の先生（子供と触れ合いう職業）になれたらいいなあ」の気持ちで、進学先をとりあえず普通科に決めたみたいです。ただ、夢や希望をもち、人生の目標に向かって、高校生活も、そして高校卒業後も一生懸命に努力されてきたのだと思います。そこで考えることは、その人にとっての進学先が、人生の目的地を決めたわけではありません。進学先の高校で、何を目的に、何をどのようにしたか。

人生の目標に向かって生きていくとき、どうやってその目的地に行くか。それが「高校選び」なんじゃないかなって思います。目的地はどこであれ、どうやってでも行けるのです。進学先は、人生の乗り物みたいなもの。「何に乗るか」です。進学先の決定は、3年間乗る乗り物を決めるようなものです。そして、そこでどうやって過ごすか…。何に乗っても、自分がその気になればちゃんと目的地にたどり着けるはずです。そして、到着したとき、どんな自分になっていたのか…。進学先で人生が決まる訳じゃない。でも、自分にぴったりの乗り物を見つけてほしいなって思います。また、目的地の違いによって、取り組み方が違うようにも思います。「学校の先生になりたい」という人と、「生徒にとって価値ある先生になりたい」という人とは、取り組み方が違うように思うのです。人生は、「なるまで」より「なってから」の方がはるかに長い。「進学先」の高校が、あなたの人生を決めるものでもないし、あなたの人生を守ってくれるものでもないです。それぞれの学校で、「何をするか」「どうやって過ごすのか」で人生は変わります。



そして今も…中学校生活をどうやって過ごすのかで、あなたの未来は大きく変わります。